

「雪氷研究週間 in 旭川」へ参加しました

道 路 部

平成17年9月26日～10月1日に旭川市で「2005雪氷研究週間 in 旭川」と題して、日本雪氷学会と日本雪工学会の全国大会などが開催されました。当所も後援機関の一つとして開催に協力するとともに、当所道路部から、研究発表（雪工学会、雪氷学会）、パネルディスカッション、技術展示、雪氷楽会に参加しましたのでご報告します。

■研究発表（雪工学会）（9月26日～27日：旭川市科学館）

雪工学会の研究発表は全て口頭発表で、道路部からは以下の5件の発表を行いました（写真1）。また、伊東が「道路の雪処理」セッションの座長を務めました。

・交通研究室

タクシープローブデータを活用した冬期交通特性調査

～札幌市における事例～

（宗広）

・防災雪氷研究室

路傍植栽に対する雪圧防止杭の効果に関する一考察

（伊東）

地域ITSの展開とその評価－「冬の峠案内」の事例－

（有村）

冬期道路情報の提供と道路状況・移動時間の把握について

（松島）

冬道の運転に対するドライバーの意識

～冬期道路の高度情報提供システムの開発に向けて～ （三好）



（写真1）三好研究員の発表状況

■研究発表（雪氷学会）（9月28日～30日：旭川市科学館）

雪氷学会の研究発表は、口頭発表とポスター発表に分かれ、道路部からは以下の4件の発表を行いました（写真2）。また、松沢が「交通」セッションの座長を務めました。

・交通研究室

スパイクタイヤ規制の評価から得られるもの

（浅野）

熱収支法による路面凍結予測手法の構築について

（高橋）

・防災雪氷研究室

吹雪視程推定における飛雪空間密度と摩擦速度

（松沢）

雪圧防止杭や支柱の設置と路傍植栽の損傷との関係

（伊東）



（写真2）浅野室長の発表状況

■パネルディスカッション（9月27日：旭川市科学館）

雪工学会道路研究委員会の主催で「凍結路面とその対策」と題する、パネルディスカッションが行われ、約70名の参加がありました。2件の基調講演に続いて、北海道内、道外より6名のパネラーを迎え、冬期型の事故形態の分析から凍結防止剤、旭川開建での取り組み、歩行者転倒事故、雪道研究会の紹介など、凍結路面について各方面からの幅広い議論が行われ



（写真3）パネルディスカッションの状況

ました。当所道路部からは、加治屋室長がコーディネータとして、また浅野室長がパネラーとして参加しました（写真3, 4）。

・基調講演

「凍結路面とその対策」

村國 誠氏（東北環境テクノマート）

「世界各国の冬期路面对策の違いとこれからの方向」

石本敬志氏（（財）日本気象協会）

・パネルディスカッション

コーディネータ：

加治屋安彦氏（（独）北海道開発土木研究所）

パネラー（50音順）：

浅野基樹氏（（独）北海道開発土木研究所）

池原圭一氏（国土交通省国土技術政策総合研究所）

小泉重雄氏（北海道開発局旭川開発建設部）

佐藤 巖氏（ソリトンコム）

新谷陽子氏（（社）北海道開発技術センター）

福原輝幸氏（福井大学）



（写真4）パネルディスカッションの状況



（写真5）技術展示ブースの状況

■技術展示（9月26日～30日：旭川市科学館）

旭川市科学館ロビーにおいて、当所道路部で実施している研究のパネル展示や、パンフレット等の配布を行いました。一般の方々を含め多数の方々に展示をご覧頂きました（写真5）。

■雪氷楽会（10月1日：旭川市科学館）

最終日の土曜日は、旭川市科学館において、一般の来場者を対象に、雪氷に関する様々な楽しい実験を行いました。この雪氷楽会は、非常に多くの方が参加され、延べ1,555名の入場者がありました（写真6）。



（写真6）雪氷楽会開催状況

■その他（両学会合同公開シンポジウム、分科会等各種会合など）

公開シンポジウムでは「中越地震から学ぶもの」と題して、中越地震発生後に雪氷災害の危険度を軽減するため、両学会の合同で発足されました「新潟県中越地震 雪氷災害調査検討委員会」での活動報告及び活動により得た教訓、新潟県の現在の復興状況などが報告されました。

また、両学会の内部に設置されている各分科会で専門分野毎の研究交流も行われました。

加えて「雪氷研究週間 in 旭川」事務局には、防災雪氷研究室の伊東が実行委員として参加し、会場設営や参加者対応にあたりました。

（文責：松島 哲郎）